

1. 『法句経』 (Dhammapada) 114

不死の境地を見ずに百年生きるよりも、不死の境地を見て一日生きるほうがすぐれている。

2. 釈尊入滅直後に経と律が結集された。経は阿含経として伝承された。パーリ語の律の小品に最初の物語が伝承された。『改訂 大乘の仏道』資料編 (東本願寺出版)参照。

3. 梵天勧請の物語

耳あるものたちに不死の門は開かれた。信仰をおこすがよい。人びとに害あるのでは  
と思い、微妙で卓越した法を説かなかつたのだ、ブラフマン(梵天)よ。

(不死を甘露と漢訳する)

4. 邪命外道ウパカとの遭遇のエピソード

法輪を転じて不死の鼓を打ちならそう

5. 五比丘との再会のエピソード

比丘たちよ、如来を、名前とか友よといって、呼んではならない。比丘たちよ、如来は、阿羅漢であり、正覚者である。比丘たちよ、耳をかたむけよ。不死が得られた。私は教えよう。私は法を説こう。

6. 四聖諦の教説 『改訂 大乘の仏道』 (東本願寺出版)参照。

苦聖諦 苦しみがあるという真実

集聖諦 苦しみが生ずる原因の真実 渴愛(渴き求めること)

滅聖諦 苦しみの消滅の真実

道聖諦 八正道 — 正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定

中道 比丘たちよ、如来が覚知した、眼を生じ、智を生じ、静寂、叡知、覚知、涅槃をもたらず、その中道とは何か。この聖なる八支からなる道であり、すなわち、正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定である。

7. 高僧和讃 源空讃 第十一首

諸仏方便ときいたり 源空ひじりとしめしつ

無上の信心おしえてぞ 涅槃のかどをばひらきける

(涅槃のかど = 涅槃の門 = 不死の門)